

開催日:令和5年6月13日(火)

開催場所:生野区役所 5階 502・503会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>生野区内一斉での防災訓練について、昨年の区政会議で提案させていただいたが、この度、それが実現されることになったのは、大変喜ばしいことかなと思う。それは感謝を申し上げる。ぜひ続けていていただきたいのと、皆さんに活動を認知してもらえよう、広報等周知活動を頑張してほしい。</p>	<p>今年度から、新たに生野区内で一斉に防災訓練を行う「生野区災害想定訓練」を実施することとなりました。この訓練は、大規模災害時に備え、発災時間を設定し、避難所開設訓練等を実施するもので、地域、行政、民間に参加いただき、生野区全体の防災力の向上を図ることを目的として開催するもので、今後は毎年実施する予定です。開催に向けては、広く周知を行い、より多くの方々が参加いただけるよう努めてまいります。</p>
<p>災害時における地域での自助・共助について、正直自分の住んでいる地域で自助ができるのかという疑問がある。また、共助をするに当たっても、こういった手順と仕組みでできるのかわからない。</p>	<p>自助・共助について、日頃から災害時に備えてどのような準備をしておくことが自分自身の身の安全を守ることににつながるのかについて記載している「市民防災マニュアル」を昨年度に班回覧するとともに各地域の集会所にも配架するなどし周知に努めており、今後も広報紙等を通じてわかりやすく周知を行ってまいります。また、地域で実施される防災訓練や、今年度初めて開催する「生野区災害想定訓練」においても地域ごとに防災訓練を行っていただき、近所や地域の方々と一緒に助け合うために必要な行動を訓練する機会になると考えています。</p>
<p>地域のさまざまな危機事態に対応できる人材の確保については、若い人がいないのが実情である。30代・40代の方がもう少し関わってくれたら変わるのかなと感じるので、防災リーダーや防犯などに、各町会から若い人を1人ぐらい出すというような仕組みになれば、もう少し自助・共助の仕組みも精度が上がるのではないかな。</p>	<p>現在、防災リーダーの方々にご活躍いただいておりますが、早い段階からの防災に対する意識を育て、地震・風水害に対する防災、減災等への取り組みに対し、自発的に活動する担い手を育成するため、地域の中学生の防災意識の醸成と防災体制の強化、知識、技能の向上をめざすことを目的として、今年度から中学生等を対象とした「生野区ジュニア災害リーダー(通称JDL)」の取組を進めており、若い世代の防災意識向上に努めております。</p>
<p>防災訓練に集まるのは高齢者ばかり。若者は全然来ない。一時集合場所に多くの高齢者が集まって、避難場所の小学校にも入りきらないこともあった。防災訓練をするだけでもすごく苦労がかかるうえ、キャンペーンを超えていたので、正直、防災機能が機能しているのか疑問である。</p>	<p>現在、防災リーダーの方々にご活躍いただいておりますが、早い段階からの防災に対する意識を育て、地震・風水害に対する防災、減災等への取り組みに対し、自発的に活動する担い手を育成するため、地域の中学生の防災意識の醸成と防災体制の強化、知識、技能の向上をめざすことを目的として、今年度から中学生等を対象とした「生野区ジュニア災害リーダー(通称JDL)」の取組を進めており、若い世代の防災意識向上に努めております。</p>
<p>防災訓練のときに、各地域の学校などで、そういうことに取り組みたいような若者のボランティアを募るといいのではないかな。</p>	<p>小・中学生への防犯に関する啓発に関しましては、新学期に朝礼での啓発活動や小学校への防犯出前講座を実施しております。また、子どもたちが楽しんで防犯意識を持ってもらえるよう防犯標語「おこのみやき」運動、ガチ☆メン大会も開催しております。今後も引き続き、様々な啓発活動を通じて、子どもたちの防犯意識向上を図ってまいります。</p>
<p>鶴橋包括の地域では、保健師、包括職員、民生委員、町会長、女性部長が中心となって、熱中症予防のために高齢者に水配りをしている。その際に安否や健康状態の確認ができるので、よい取組ではないかなと思う。敬老の祝いの品を渡すときも、安否確認を兼ねて、町会長、民生委員、女性部長が同行して1軒ずつ回っている。他の地域でも広がればよいと思う。</p>	<p>各地域における、高齢者の方への見守り活動につきましては、各地域で作成された名簿等を活用し、関係機関の連携のもと創意工夫をこらして実施していただいております。引き続きの取組をお願いいたします。</p>
<p>巽東地区約300メートルの直線道路には、小学校、中学校、わかば高校、生野支援学校と4校がある。通学路であり、安心・安全面を考えると、新生野中学校の正門前東側に防犯カメラの設置はしてもらっているが、その他のところに防犯カメラの設置が可能なのかな。</p>	<p>防犯カメラにつきましては、昨年度まで設置するというところで、各連合に1台ずつ設置したところですが、今年度は一定維持管理という形に変わっており、今後は大阪市全体でこれまでつけてきたカメラの現状を調査し、こういった形でやっていくのかを検討していくこととなります。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>百歳体操にしる、食事サービスにしる、どうしても人数に制限があり、来る人も限られる。どこでも誰でもできるスポーツ、みんなが参加できるような健康づくりみたいなのがあればいいと思う。</p>	<p>誰もが参加できるイベントとしまして、今年度「いくの健康・食育フェア」を開催し、「大腸がんのクイズラリー」等にて、がん検診の受診啓発及び区民の健康づくりに取り組んでまいります。</p> <p>また、健康意識の向上については、広報紙での健康通信及び各種検診情報の掲載、ホームページやツイッターでの啓発、区役所での庁内放送、中学生保護者等への啓発チラシの配布、郵便局等へのチラシの配架等取り組んでおります。健康情報媒体については、地域の特色を反映させ、対象者の年代や特性に対応するよう、より効果的な情報発信に努めてまいります。</p>
<p>健康意識の向上について、コミュニティに入れない方々にどうやって情報を伝達していくのかのほうがか重要じゃないのかとすごく感じているので、防犯とも併せて、健康状態の確認だったりとかも一緒に安否確認とできたら、なおいいのでは。</p>	
<p>地域福祉の分野で、公的サービスでは解決できない課題については、ファミサポの方々にも協力してもらいながら子どもたちの様子を公的機関につなげていくとか、ボランティアの方々が高齢者の方々の様子を報告してもらえそうな仕組みを作っていくといいのではないかと。</p>	<p>地域において見守り活動をしていただいている中で、気になる方がおられた場合には、区役所や区社協の見守り相談室などへ情報提供していただきましたら、関係機関と連携を図りながら、必要な支援を行っているところです。</p>
<p>地域福祉関係の支援ネットワークを見える化すると、30代、40代の若い世代の人も活用しやすくなるのかなと思う。啓発活動と併せて、こういった取組をしているというのを、もう少しデジタルで情報提供してもらえたらうれしい。</p>	<p>区役所や区社協の取組につきましては、広報紙やホームページに掲載するなどの啓発も行っております。今後は、SNSの活用も含め、より効果的な啓発活動に努めてまいります。</p>
<p>スリーアイズは障害者も高齢者、子どもも皆関係なくできるスポーツで、これを中心に推進していったスポーツを通じて、どんな人たちがいるのか、とりあえず顔見知りになってから、支援ネットワーク等々の次の段階として組み上げていったらいいのではないかと。</p>	<p>生野区におきましては、毎年区民スリーアイズ大会を開催しております。開催に伴い、区役所としましては、広報紙やチラシ・ポスター等により広報に努めております。またスリーアイズ大会以外のスポーツイベントにおいても、障がいのある方をはじめ様々な方が参加しやすいイベントとなるよう取り組んでいるところです。</p> <p>今後につきましても、より広く区民の皆様にご参加いただけるよう、関係団体と連携し、広報を行うなど取組を進めてまいります。</p>
<p>生野区の中でも、町のクリニックで積極的に年数回程度、いろんな検査をしていると、そういうところも、健診の受診率の低いということもあるのかなと思う。</p>	<p>受診率の向上に向けては、検診の必要性をお伝えできるよう広報するとともに、受付時間の延長や、土日に開催する総合がん検診の回数増加など、定員や実施回数を増やし、多くの区民の方に受診していただけるよう取り組んでまいります。</p>
<p>社協及び地域包括センターの職員が配っていたが、高齢者向けの生活支援サービス情報の冊子があり、項目別に、住所、電話番号とサービス内容も入って、非常に端的な資料で、見やすい資料だと思った。こういったいい資料ができていたので、できればそれぞれの町会の役員さん宛てに、19連合の役員さんに配付をぜひしていただければと思う。</p>	<p>令和5年2月に生野区社会福祉協議会が生活支援体制整備事業の取組として、高齢者の方の暮らしに役立つ情報をまとめた「生活支援サービス情報」の冊子を作成いたしました。関係機関等に配布し、高齢者支援にご活用いただいております。ご意見は区社協にお伝えさせていただきます。</p> <p>なお、冊子は、区社協や区民センターに設置をするほか、区社協のホームページ(&gt;生活支援コーディネーター)でもご覧いただけますので、ぜひご活用ください。</p>
<p>外国人住民向けの包括支援ネットワークのようなものがあるといいと思う。日本の文化や地域のルールなどを伝えやすくなると思う。</p>	<p>外国人住民にとって、日本の文化や地域特性について知る機会があれば、より暮らしやすくなると考えられることから、地域住民の方との相互理解を図りながら、支援につながるよう進めてまいります。</p>
<p>多言語で、町内会とはこんなものと案内できるようなものがあるといいと思う。それを区役所のホームページに掲示したり、ダウンロードして置いてもらえると、各町会の皆さんもそれを出してお知らせできるので感じた。</p>	<p>外国人住民にとって必要な情報は、防災をはじめ、ごみのマナーなど、多言語化、そしてやさしい日本語により発信しておりますが、町会についての案内についても、同じく発信できるようにしてまいります。</p>
<p>日本語学校に通っている人たちに、地域のイベントを手伝ってもらう形で参加してもらい、相互理解から始めていけるといいと思う。顔を知っていることで、お互いに協力体制が構築できると思う。</p>	<p>生野区内においては多くの日本語学校があり、一部の地域では地域の取組みに日本語学校の生徒が参加している事例も出てきています。地域のご理解を得ながら交流を促進するようまちづくりセンターと連携してまいります。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>災害時避難所の案内について、日本語、韓国語、中国語以外の言語もあつたらいいと思う。防災の多文化対応とか多言語対応を考えていかなければいけない。</p>	<p>web版ハザードマップ、くらしの便利帳等防災にかかる情報について多言語対応で周知を行っていますが、今後も多言語対応について改善・拡充に努めてまいります。 また、各避難所に配備しています「避難所開設キット」内に多言語案内指さしボード(5か国語)を配置するとともに、このボードを使用して本年6月25日、7月2日に開催しました防災リーダー研修で大阪国際交流センターの協力のもと、外国人住民の方の避難所受付訓練を実施したところです。</p>
<p>日本語を母語としていたり、日本文化を母文化としているような住民がやさしい日本語について学んで習熟していくような機会が増えていくといいのかなと思う。行政情報だけではなく、地域情報を、どういうふうにやさしい日本語だったり、多言語化していくかいうところを、行政の側でも何かできないか検討いただければと思う。</p>	<p>やさしい日本語は、いただいたご意見のとおり、外国人住民だけでなく、誰もが相手を思いやる気持ちでもってコミュニケーションする言葉です。当区としましては、「やさしい日本語からつながろう」と称して、区民の方々へのやさしい日本語の普及に努めております。そうすることで、行政情報だけでなく、地域住民の方も含めてみなさんがやさしい日本語による情報を広く発信できるように進めてまいります。</p>

令和5年度生野区区政会議(第1回こどもの未来部会)  
 主なご意見等(要約)と区のお考え、対応

開催日:令和5年6月14日(水)

開催場所:生野区役所 5階 502・503会議室

ご意見等(要約)	区のお考え、対応(要約)
<p>オンデマンドバス、生野区役所が企画をして狙ったとおりにそのように展開していることについては、本当にすごい企画でよかったと思っているので、区政会議なり区役所さんたちの努力というのをここで実感した。</p>	<p>この度いただきましたご意見につきましては、大阪メトロと共有させていただきます。</p>
<p>オンデマンドバスについて、利用する人が増えていてよいと思うが、さらに活用してもらうために、乗り方や利用のしかたをもっと宣伝すべき。気軽に情報提供ができるように、たとえば名刺サイズのカードにORコードをつけたものなどがあると周知が広がると思う。</p>	
<p>オンデマンドバスの配布物はあるが、子ども用ではなくて一般用で、停留所が増えて新しく印刷されたものもあるので、それを小学校・幼稚園用にアレンジして配るのもいいアイデアだと感じる。</p>	
<p>今は広報紙でも、とても明るい感じで、地域住民としての外国人の人の紹介の在り方だとか、こういう国から来ているので、こういう特色があるので、こういうように生活していますといったことが多く紹介されるようになったことがとても喜ばしく、今他の地域で教育関係の仕事をしている者としては、「生野区はこういうことがありますよ」と宣伝ができるようになったこともうれしい。</p>	<p>生野区は区民の5人に1人が外国人住民、そしてそのルーツは約60の国や地域にわたるグローバルなまちで、日常から外国人住民の方々と接する機会が多いまちです。そういった日常の暮らしや文化などを広報紙などにより広く区民に知っていただくことで、相互理解もより深まり、区内だけでなく、区外にもグローバルなまち、共生のまちとして広く知っていただくことにつながり、ひいては区の魅力向上につながるようにと期待しております。</p>
<p>生野区がやってることは実はすごい。そのことを宣伝をしながら、子どもたちが、今住んでる人が出ていかないようにするのももちろん、出ていったときに戻ってこれるようにするところも大事かと思う。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、区に暮らす方々が区外に転出した後も、また区に戻って暮らしていただけるようなまち、住みたい、住み続けたいまちと思っていただけるように、多様な魅力資源をもつ生野区のまちの魅力向上とプロモーションを進めてまいります。</p>
<p>生野区ブランドの認知度を高めることは大切であると思う。</p>	
<p>生野区には、宝物はいっぱいあると本当に思っている。私たちの持っている宝を最大限活用し、広がってるということが分かるようになればと思う。</p>	
<p>学校の再編の際には、通学路の安全も考慮してほしい。</p>	<p>学校再編に伴う通学路の安全対策につきましては、対象校の保護者・地域の方々等で構成する「学校適正配置検討会議」において、実現可能な対策を検討してまいります。また、その検討内容を踏まえ、本市関係部局や警察等と連携を図り、新たな学校の開校までに通学路の安全対策を実施してまいります。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>子どもの交通安全について、親と学校と地域が考えていく必要があるが、まずは親がもっとしっかり子どもにルールなどを教えるべき。</p>	<p>親への交通安全に関する啓発につきましては、小学校の入学説明会と3歳児健康診査において行っております。 また、子どもに対しては、新学期に朝礼での啓発活動を実施しております。また、子どもたちが楽しんで防犯・交通安全意識を持ってもらえるよう防犯標語「おこのみやき」運動、ガチ☆メン大会も開催しております。 今後も引き続き、様々な啓発活動を通じて、子どもたちの交通安全意識向上を図ってまいります。</p>
<p>学校の授業の後、そのまま補講授業というかたちで、学習力をアップさせたり、宿題ができたりするとよいと思う。塾に通わずとも、引き続きその場所で移動せずに自分のモチベーションを維持したまま時間を過ごすことができ、帰宅したら自分のオフの時間を過ごすというような環境ができればと思う。</p>	<p>授業後の課外学習につきましては、地域ボランティア等のご協力をいただき放課後学習の取り組みをしている学校があります。 また、区役所では「民間事業者等を活用した課外学習授業『いくの塾』」により、生野区内中学生及び義務教育学校後期課程生に向けた、放課後に学校施設の教室等を会場とした課外授業を実施しております。</p>
<p>教育について、勉強中心が行き過ぎているように思う。もっと生きていくうえで必要な学びの場があるのではないかな。</p>	<p>生野区では区内市立小中学校および義務教育学校へ、未来を生き抜く力の育成の視点に立ち、「生きるチカラまなびサポート」事業により、性・生教育とキャリア教育の出前授業を行っております。</p>
<p>生野区はものづくりや町工場など、伝統的な素晴らしい技術がある。そういった財産を最大限に生かしながら、障害のある方や外国人、子どもたちが学び、働き、成長していけるまちになっていけたらいいと思う。</p>	<p>生野区では、子供会育成連合会と共催で、区内の町工場のご協力を得ながら、お子様にものづくり楽しさを知っていただく「こども工作教室」を毎年開催しております。また、生野区には、外国の方を積極的に採用している町工場や障がいをお持ちの方の声を聞いて商品開発を行っている町工場など魅力的な町工場がたくさんありますので、引き続き、ものづくり百景を活用しながらものづくりの魅力を発信してまいります。</p>
<p>子ども×ものづくり、子ども×オンデマンドバス、子ども×経験カリキュラム、その辺のところを含めながら、子育てがしやすい、教育が支援しやすいというまちづくりを私たちが考えていくことで、子育てが終わり教育が終わった人が、大人になってまたこの生野区へ帰ってきて子どもを産んで育てる。そんなルーチンがうまくいく生野区になることがこの部会として期待していることかと思う。</p>	<p>いただいたご意見のように、生野区には多様な分野にわたってたくさんの方の魅力資源が存在・潜在しております。それらを行政や区民のみなさんが発掘し、ともに磨き上げていくことで、次世代を担う子どもたちにも伝わり、それが将来また生野区で暮らしていくきっかけにもなり、生野区が持続可能なまち、発展していくまちにつながっていくものと認識しておりますので、今後も部会での委員のみなさまのご意見・ご議論を期待しております。</p>

令和5年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)  
 主なご意見等(要約)と区のお考え方、対応

開催日:令和5年6月16日(金)

開催場所:生野区役所 5階 502・503会議室

ご意見等(要約)	区のお考え方、対応(要約)
<p>まちづくりには、「やりたいこと」と「やらなければならないこと」がある。まちの魅力とか地域の活性化っていうのは、「やりたいこと」、区民、市民の人たちがこんなことをしたら面白いことを仕掛けてやっていくうちに上がっていくものかと思う。</p>	
<p>もう既に民間で動いているところが、もしかしたら、生野区にあるのかなと。個人単位でやっているところを、区がどういうふうな表現で見せていくのかっていう、ポジショニングになれば面白い。</p>	
<p>カウンターパートという問題で、面白い地域とは、行政が頑張るのではなく、大体、地域の情報発信をしている個人やNPOがあったり、面白いお店、バルをやっているとか、面白い、生きのいい動きっていうのがまちにあって、それをどんどんいろんな発信の仕方をするによって、住みたいなって思わせる、思うようになっていくという、何か熱量があるような気がしている。                      やりたいと思ってる人たちが、面白がって取り組んでいる間に、魅力というのは増すものだと思っている。</p>	<p>まちの魅力向上、地域活性化に向けた取組には、面白く、そして楽しみながらの仕掛けづくりといった熱量の高い方々の力がとても効果的と考えられ、そのような方々、個人、団体、企業を問わずすでに生野区のまちで活動されておられる方々も含めて、活躍いただけるような機会を創出できれば、より魅力あるまちづくりにつながるものと認識しております。</p>
<p>もしかしたら、気づいていないだけで、まちをよく見たら、生野を反転させかけてる人っているのかもしれないし、よく知らないだけではないのかと。こんな面白いことをやってる人たちのことをよく知らないで、生野区は魅力がないと言ってるのかもしれないことに注意しないといけないと思う。</p>	
<p>今後は生野区で面白いことをやりたいという人をどう増やしていくか。そして、地域としてはそれをどうバックアップをしていくのか。「まちづくりなんて面白がっていればいいんだよ」ということを言ってあげる大人がいるっていうことが必要かもしれない。面白がって、無責任にやれという、この無責任さが多分、何か未来の責任を持つことになるのかなっていう、こういう時代に入ってきてるのかなと思う。やりたいと思うことを、どう邪魔せずに、協力していくかがということが大事。若者がチャレンジできるまち、それを支援できるまちになると活性化していくと思う。</p>	<p>まちづくりを進めていくにあたり、地域の大人だけでなく、若年層が楽しく、面白く取り組んでいくことも、大きな力になるものと認識しております。そういった若者が積極的にまちづくりにチャレンジできる、そういった土壌が生野区のまちに広がっていくことが、将来の持続可能なまち、発展していくまちにつながっていくものと考えられます。</p>
<p>自分たちの主体性、何をしたいのかというのを住民側が自分たちで湧き出してくるというか、生み出してくるというか、そういうことをいろんな場所でできるような仕掛けということをまずやる必要がある。</p>	<p>まちづくり協議会(地活協)の自主的な取組につきましては、現在、まちづくりセンターによる支援を進めているところですが、今後もまちづくりセンターの持つノウハウを活用いただけるよう地域とまちづくりセンターとの連携を深めるよう取組を進めてまいります。</p>
<p>生野区でよくスタンプラリーを各地域でされている。特に、巽のほうとかは、すごく大きな規模でやられて、あれが生野区全体に広がれば、もっと面白い。                      例えば、生野区内で食べていただける食事券だとかそういった形に変えて、生野区以外の人をもっと生野区の奥のほうに呼び込むような企画が、民間と協力してできたらいい。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、地域では、まちの活性化に向けた様々な活動をされております。それらが、区内の各地域にも広がっていくことで、まち全体の活性化につながっていくものと考えられ、ご提案の取組についても、地域の力と民間事業者のノウハウやアイデア、集客力が掛け合わさることで、より大きな流れが生まれる可能性があるものと考えられます。</p>
<p>生野区は外国人が多く住んでいるので、その人たちにもいろいろなイベントを立ち上げてもらって、まちの活性化を促していけばいいのではないかと。</p>	<p>ご指摘のとおり、多くの外国人住民の方々が当区に居住いただいておりますので、まずは地域と交流して地域のイベントへ参加いただけるようまちづくりセンターと連携して促してまいります。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>まちの活性化は、つまるところ、若い子たちがどれだけ定住したいかなっていうところに尽きると思う。</p>	<p>生野区のまちが持続可能で発展していくまちになるためには、次世代を担う子どもたち、若年層の定住は欠かせないことから、生野区としても、区の特性を活かした様々な施策をとりながら定住促進に努めてまいります。</p>
<p>例えば、生野区が管理してる空き家はこれだけあります。来てくれた人に対して生野区って、何か始めやすいです、空き家のストックがこんだけあって、マッチングさしてもらいます、とアプローチできれば、大きなイベントの単発の一発じゃなくて、継続する意味のある目的を持った、深い目的を持った一発になる。</p>	<p>当区におきましては、不動産市場に出ていない空き家を利活用することでコミュニティを生み出し、まちを盛り上げる活動をしておられる「生野区空き家活用プロジェクト運営委員会」があり、定期的に情報交換を行っておられます。これらの取組の周知を今後、更に進めてまいります。</p>
<p>まちの魅力を高めると言うわりに、まちの魅力として伝え継いでいるだんじり祭りがちゃんとできない状況にある。周辺地域に住んでいる人も、もう少し伝統行事に理解を示してほしい。</p>	<p>だんじり祭りなど地域の習俗的な行事を通じたコミュニティへの理解の醸成は、地域の特性などを踏まえて進めていただく必要があります。地域の取組を通じて、理解の醸成が深まるよう区役所としても必要に応じた支援をしてまいります。</p>
<p>コリアタウンに多くの方が訪れていることはまちの魅力ではなのか。まちの魅力っていうときに、どうも定住人口を増やすところにフォーカスをしているが、来街者数を増やすこともまちの魅力向上かと思う。</p>	<p>コリアタウンには今や年間200万人もの人々が訪れる一大観光地となっており、生野区のまちにとっても大きな魅力資源となっています。委員ご指摘のとおり、人々の定住だけでなく、リピーターも含めてたくさんの人々が訪れるまちにしていくこともまちの魅力向上の取組と考えられます。</p>
<p>ものづくりの技術が高い生野区であるが、自社商品や区民が買える商品を作っていく、それを広げていくというところまで、ものづくり産業を再生・活性化させていくプランを構築していく必要があるのではないか。</p>	<p>当区のものづくりに携わる企業の多くは「B to B」いわゆる企業間取引が多い業態であり、一般消費者である区民が購入する製品づくりには至っていない現状があります。今年度、取組を進めている「生野区ものづくりタウン事業」においては、企業間ネットワークの構築とともに「B to C」に向けた製品づくりも視野に調整を進めております。</p>
<p>空き家の利活用について、空き家活用株式会社と連携しているが、何軒の空き家がどのように変わってどのような取組が増えたのか。空き家を活用することで魅力がどう増したのかなどについて知りたい。</p>	<p>当区のホームページ上では「いくのDEリノベ」という空家等を利活用することにより、まちの魅力が増している事例を32回にわたり紹介しております。また、本市都市整備局の空家利活用改修補助事業のホームページ上では当区の「はたけもり」という事例が紹介されております。空き家活用株式会社との連携協定等による利活用事例は現在(R5年6月)のところありませんが、事例が出来次第上記と同様の広報を進めるよう検討いたします。</p>
<p>いまざとライナーとオンデマンドバスについて、どのコースにニーズがあるのか。これをやることによって誰がどのように喜んで、何かどうよくなっているのか。</p>	<p>いまざとライナーはあべの橋行き・長居方面行きとも通勤通学の手段として利用が定着しており利用回数は年々増加しています。また、オンデマンドバスは生野区役所、鶴橋駅、桃谷駅、寺田町駅などへの利用が多く見られます。これらの取組により、区民の利便性が向上しており、移動に関して身体の負担が少ない環境を創出しています。</p>
<p>住みたい、住み続けたいというまちにするには、よっぽど大きなアクションをおこさないといけないのではないか。</p>	<p>まちを大きく変えるエネルギーは、生野区の場合、個人、団体、企業を問わずまちに暮らす人々、まちに関わる人々に宿っているものと認識しております。この度、生野区では、2025年大阪・関西万博の開催を景気に、そのような人々のエネルギーを最大限に引き出せるように、様々な仕掛けづくりに取り組んでまいります。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>行政は硬い、関わりづらいイメージがある。もっと民間との距離を縮め、協力し合えたらいいと思う。</p>	<p>まちづくりをはじめ、まちの様々な課題に対しては、従来のような行政主導だけではなく、民間の多様なノウハウやアイデアが必要になっています。そのため、当区としても公民地域連携という手法でもって、様々な取組を進めてまいります。</p>
<p>ネットで「生野」と検索すると、「おもろいまち」みたいなのが上位に来るように、何かブランディングが定着すればすごい。勝手に「生野区、あそこめっちゃ住みやすいで」とか発信するのも面白い。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、生野区のまちが、暮らしても、遊んでも、そして働いても面白いまち、となるように区の特性を活かした様々な施策をとりながら、区の内外に効果的にプロモーションを進めてまいります。</p>
<p>教育をアプローチできるまちだったら、もっと何か協力し合いながら育めるような環境をつくれたら住みやすいまちに変わるんじゃないかなど。教える教育もあれば共に協力し合いながら育む共育もあり、これを相まったところが何か住みやすいまちに近づくんじゃないかと思う。</p>	
<p>最近では、名所旧跡に行くのではなく、普通にそのまちで暮らしているような旅がしたいという、暮らし観光という動きがあったりする。何なら、ゆくゆくそこに移住したいっていう人たちのお試し移住として、宿屋をやるみたいなことが全国的に起きてきている。そういう魅力の出し方もある。</p>	<p>生野区のまちには、市内の都心部とはひと味違うレトロで趣のある街並みがあります。いただいたご意見のとおり、そういったところも区のまちの特性、まちの魅力のひとつとして打ち出していくことも、まちのプロモーションとして有効なものと考えられます。</p>